

## もくじ

- ・ ひとつちななひき

# ひとつちななひき

げんさく 原作：  
どうわ グリム童話

イラスト： ナナホシ

へんしゅう 編集：  
YellowBirdProject

3

むかしむかし、とある<sup>くに</sup>国の<sup>ちい</sup>小さな<sup>まち</sup>町に、<sup>いっけん</sup>一軒の  
仕立て屋<sup>した</sup>がありました。そこで<sup>はたら</sup>働く『サム』という  
青年<sup>せいねん</sup>は、まだ<sup>わか</sup>若いのに<sup>い</sup>良い<sup>うで</sup>腕をして<sup>ひょうばん</sup>いると評判でし  
た。

しかし、サムはその<sup>ひょうばん</sup>評判を<sup>き</sup>聞いても、ちっとも  
うれしくありませんでした。なぜなら<sup>かれ</sup>彼には、<sup>おお</sup>大きな  
<sup>ゆめ</sup>夢があったからです。

(ああ、<sup>ひ</sup>ぼくはいつの日か、<sup>こころ</sup>心が<sup>ふる</sup>震えるような  
<sup>ぼうけん</sup>冒険がしたいなあ。ぼくに、<sup>おおおとこ</sup>大男を<sup>かんたん</sup>簡単にやっつけ  
られるような<sup>ちから</sup>力があつたら、どんなにいいだろう  
か・・・)

サムは<sup>まいにち</sup>毎日、そんなことばかり<sup>かんが</sup>考えていました。



5

ある日、サムがいつものように仕事をしていると、  
ハエが数匹、サムが作業をしている机の周りに  
集まってきました。

「もう、うるさいなあ。あっちへいけ！」

サムは手元にあつた布切れで、テーブルの上を  
パシリとたたきました。

そしてそつと布切れを持ち上げてみると・・・

いち、に、さん、よん・・・なんと七匹ものハエが  
死んでいたのです。

